

ジョセフ・シユメルザイス

駐日米国大使館 元首席補佐官
ジェイ・ピー・エス・インタナショナル 代表取締役社長

父親の転勤で13歳で来日したことがきっかけとなり、日本との縁が深くなった、ジョセフ・シユメルザイス氏。
2018年から3年間は、駐日米国大使館にて首席補佐官として活躍、経済安全保障を中心にあらゆる分野において日米同盟関係強化に尽力した。
これまでの経験から、日本の良さ、日本人の良さを日本人以上によく知り、そして日本が好きであるがゆえに日本に求めることが明確にある。
日本人のやさしさを敬い、「安全・清潔さ・おもてなしの心が日本人の強みだ」と語る。
日本人の匠の技、職人のこだわりを生かすべく、日本のウイスキー造りにも乗り出した。
結婚相手も日本人という、日本をこよなく愛するシユメルザイス氏。
日本人の良さを生かし、日本に活力を生み出す同氏の活動に、多方面から期待が寄せられている。

撮影◎戸川寛

ビジネスと外交の世界で 多彩な経験を積んできた 真の知日派が語る 日本の可能性と問題点

米国、東アジア、特に日本を中心にビジネスの幅広い分野で経験を積んできたジョセフ・シユメルザイス氏。国籍、企業規模を問わず、さまざまな事業の問題解決、市場開拓に対応可能な知見とノウハウを持つ。特に、米中対立が激化する中、日本企業への戦略提言等で貢献できるとするシユメルザイス氏に、日本と米国との協力関係、そして日本人、あるいは日本にとって貴重な気付きやアドバイスをいただく。

父の転勤で日本の魅力に触れ アジアを飛び回るビジネスマンに

伊藤 アジョセフ・シユメルザイスさんは、2018年から3年間は、駐日米国大使館の首席補佐官を務められました。
まずはこれまでのご経歴をお話いただけますでしょうか。

シユメルザイス 私の父はIBMに勤めていて、何度か転動していました。13歳の時、また転勤になり、私は「ヤダヤダヤダ！」と言いましたが、母は「今度は東京ですよ。ノースカロライナの緯度とほぼ同じだから大丈夫」と。まさに我々の住んでいたノースカロライナが北緯35・7度ぐらいで、この港区は35・8度ぐらいでした。それを渡々信じて（笑）日本に来たのが昭和51年（1976年）の夏でした。当時のアメリカ大統領がカー

ター、日本の総理大臣が福田赳夫さん。横綱が北の湖と輪島。ヒット曲がピンクレディーの『ペッパー警部』。人気テレビ番組がザ・ドリフターズという時代です。

当時、アメリカでは郊外に住んでいたので母の車がないとどこにも行けませんでしたが、でも東京は電車とか自転車から自由に探検できて面白かった。とんかつや焼き鳥、焼き芋とか食べ物も美味しく、本当に楽しめました。